

# 日本人指紋ノ研究 (第一回報告)

## 一、乙種蹄狀紋ノ隆線數ニ關スル研究

金澤醫科大學法醫學教室(主任古畑教授)

學生 正 木 信 夫

### 目 次

一、緒 言	五、調査成績
二、検査目的	六、考 察
三、検査材料及ビ検査方法	七、總 括 (乙種蹄狀紋一万二千五百六十個ニ就テ)
四、我國ニ於ケル指紋ノ分類及其ノ指紋價	八、結 論

### 一、緒 言

指紋ハ終生不變、萬人不同ナル特性ニヨツテ、現今唯一ノ個人識別法トシテ、犯人ノ異同識別、前科ノ發見等犯罪搜查ノ上ニ偉大ナル効果ヲ發揮シツツアルコトハ、周知ノ事實デアルガ、司法上探證學の應用以外ニ一般社會上ノ應用トシテ、印鑑又ハ署名ノ代用トシテ、銀行ノ貯金帳、小切手等ニ使用セラレ、多數ノ人ヲ取扱フ所ニ於テハ、從業員ノ指紋ヲトリ身代リ及ビ犯罪防止ニ利用シ、又米國陸海軍ニ於テハ、各兵士ノ指紋ヲ取り萬一ノ場合死體ノ個人識別ニ應用シテ效果ヲ擧ゲテ居ルトノ事デアル。然シ指紋ハ個人識別上ノ應用ニ止マラズ生物學的研究セラレ、其ノ應用方面ヲ擴大スル傾向ヲ生ズルニ至ツタ事ハ誠ニ喜バシイ事デ、特ニ指紋ノ遺傳ニ關スル研究ハ極メテ重要ナルモ

ノデアル。

大正十五年六月第一回金澤犯罪學會ニ於テ、古畑教授ハ、「個人識別法」トイフ題ノ下ニ、指紋ノ沿革、分類、應用ニ就テ述べ、指紋ニヨツテ犯人確定ヲナシタ東西ノ有名ナル實例ヲ紹介シ、更ニ指紋ノ生物學的意義ニ論及シ、指紋ノ遺傳關係、指紋ト人種ノ關係、指紋ニヨル年齡ノ鑑別等ニ亘ツテ演述シ、又同年十月十日第二十六回北陸醫學會ニ於テ、「指紋ノ人種特異性並ニ指紋系數ニ就テ」トイフ演題ノ下ニ指紋ノ出現率ガ人種ニヨツテ相違スルガ、同一民族ニ於テハ一定デアルコトヲ明カニセラレ、之レ指紋ガ一定ノ法則ノ下ニ子孫ニ遺傳スルコトヲ暗示スルモノデアルト説イタ。又古畑教授ハ各指紋ノ出現率ガ人種ニ特異ナルモノナラバ、今日ランドスタイナー氏反應ニヨル人血液型ガ人類學上ニ應用セラレテ重要ナル新領域ヲ開拓セルガ如ク、指紋モ亦人類學的研究ニ應用セラレテ人種ノ研究ニ貢獻スルニ至ルデアラウトテ、指紋ヲ人類學的研究ニ血液型ト並ビ利用センコトヲ唱導シ、昭和二年九月二十日ヨリ一週間、和蘭、アムステルダム市ニ開催セラレタ第三回萬國人類學會ニ於テ、其ノ意見ヲ發表シテ居ル。(十全會雜誌第三十二卷第十一號一五八頁古畑教授通信ニヨル。)

之ニ先チ、岸孝義氏ハ大正十五年四月第七回日本醫學會第二十一分科會ニ於テ、「指紋ニヨル年齡ノ推定」、「現場指紋ノ採取可能期間ニ關スル研究」ヲ報告シ、社會醫學會雜誌第四七八號デ、雙胎兒ノ指紋ニ同一ナルモノアリトノ説ニ對シテ反對意見ヲ述べ、之ニ關聯シテ、第五十四回金澤醫學會ニ於テ、「雙胎兒ノ血液型並ニ指紋」ト題シ、六十例ノ雙胎兒ノ研究ヲ發表セラレタ。

金澤醫大ノ法醫學教室ニ於ケル指紋ノ研究トハ、全ク獨立シテ長崎醫科大學法醫學教室ニ於テモ、淺田教授指導ノ下ニ、指紋ノ研究ニ着手シ、倉上博士ハ、二十例ノ雙胎兒ノ指紋ニ就テ報告シ、吉田寛一、藤田潔兩氏ハ、「五ヶ莊民ノ指紋」ニ就テノ研究ヲ發表セラレテ居ル。

ソノ他指紋ニ就テハ、司法省行刑局指紋部ノ藤井藤藏氏及ビ其他ノ人々、古瀬安俊氏、東北帝國大學ノ長谷部言人

博士、九州帝國大學ノ高山正雄博士、新潟醫科大學ノ飯島庄右衛門氏ノ研究、種村弑、伊藤哲一、關貢、三氏ノレントゲン指紋法ニ關スル研究、又静岡刑務所長兒島三郎氏、臺灣ノ南條博和氏ノ指紋ト性格ニ關スル興味アル研究ガアル。外國ニ於ケル指紋ノ研究ニ至ツテハ、R. Heindl, K. Bonnevie, H. Poll 等ヲ始メトシテ多數ノ報告ガアル。

カク指紋ノ研究ハ、個人識別上ノ應用以外ニ進路ヲ求メ指紋ノ本性ニ就テ胎生學的、人類學的並ニ遺傳學的研究ガ行ハルルニ至ツタガ、之等ノ研究ノ進捗ト共ニソノ生物學の意義モ次第ニ明カニナル事ト思フ。

余モ亦指紋ノ研究ニ興味ヲ抱キ、諸家ノ驥尾ニ附シ、指紋ノ研究ヲ初メルコトトナツタ。他ノ研究ハ更ニ報告スルコトトシテ、ココニハ先ヅ乙種蹄狀紋ノ隆線ニ就テ、御報告シテ、先輩諸賢ノ御指教ヲ仰グ次第デアル。

## 二、檢 査 目 的

我國ニ於テ指紋法ガ、犯人個人識別法トシテ採用セラレタノハ、現樞密院副議長法學博士平沼騏一郎氏ガ司法省ノ民刑局長ノ頃司法事務ノ視察ノタメ、歐米各國ヲ歴遊シタ際特ニ、ヘンリー式指紋法ヲ研究シテ歸リ、我國ニ於テモ、犯人異同識別ノ爲メニ指紋法ヲ採用スベシト説キシニ始リ、氏ノ提議ニ基ヅキ、司法省ニ於テハ、犯人異同識別法ヲ調査スル事ヲ決定シ、明治四十一年七月二十四日民刑局長法學博士平沼騏一郎、監獄局長小山温、監獄事務官眞木喬、同豊野胤珍、檢事古賀行倫、法學博士大場茂馬、司法省參事官谷田三郎ノ諸氏ハ右調査委員ニ任命セラレ、市ヶ谷監獄ノ囚人一千五十七名ノ指紋ニツイテ精密ニ調査シ、英國ノヘンリー式ト獨逸ハンブルグノロツシユル式指紋法トヲ比較研究シタ結果、英國式ヨリモ獨逸式ヲ便宜ナリト認メコノ方法ヲ採用スルコトトシタガ、其ノ統計結果、ハンブルグ式統計ト一致セザル點アルヲ見テ、ハンブルグ式ヲ少シク改メテ日本式ノモノトシテ我國ニ採用スルニ至ツタノデアル。ハンブルグ式指紋法ト日本司法省式指紋法トノ相違ハ、乙種蹄狀紋隆線ハ日本ト獨逸デハ人種のニ相違スルト云フニ在ルノデ、日本ハ日本人ニ適當シタ様ナ分類法ヲ採用シタ譯デアル。元ヨリ犯人異同識別ノ目的ニ應用スル

ニハ各國ノ便宜トスル分類法ヲ採用シテ少シモ差支ヘナイモノデアルガ、學術上ヨリ考察スル時ハ、獨逸人ト日本人トデ、乙種蹄狀紋ノ隆線數ノ出現ノ比率ニ相違ガアルカ否カト云フ事ハ、甚ダ興味アル問題デアル。

乙種蹄狀紋ノ隆線ハ人種ニヨツテ相違スルト云フ報告ニハ、司法省ノ犯罪人異同識別法取調會報告ノ外ニ朝鮮ノ久保博士及ビ古瀬安俊氏ノ研究ガアル。

久保博士ハ朝鮮人、支那人、日本人ノ指紋ニ就テ精細ナル研究ヲシテ、乙種蹄狀紋ノ内外兩端間ニアル指頭隆線數ノ變異ハ人種ニヨツテ相違スルモノデアルト云ツテ司法省式ノ分類法トハ別ノ方法ヲ提唱シテ居ラレル。然ルニ岸孝義氏ガ金澤市ノ小學兒童ノ指紋ヲ採取シ、二一〇〇個ノ乙種蹄狀紋ニ就テ隆線數ヲ檢ベタ所デハ、獨逸ノロツシエル氏ガ、三〇〇〇個ノ乙種蹄狀紋ニ就テナシタ研究ト比較シテ、其ノ間ニ人種的差別ヲ見ルコトハナイト云フ結論ニ到達シタ。(古畑教授第一回金澤犯罪學會演說ニヨル。)

即チ司法省ノ研究、久保博士及ビ古瀬安俊氏ノ研究ニ從ヘバ、乙種蹄狀紋ノ指頭隆線數ノ變異ハ人種的ニ差違アルト云フ事ニナリ、當教室ノ岸氏ノ研究ニヨレバ、人種的ノ差違ハナイト云フ事ニナリ、二種ノ見解ヲ生ズルニ至ツタ。此ノ事實ハ、犯罪搜查ヲ目的トスル分類上ニハ、大シテ重要ナル事デハナイガ、學術上カラハ可ナリ興味深ク且ツ重要ナル問題デ是非解決シナケレバナラヌモノデアル。夫レ故余ハコノ疑問ヲ明カニシタイト考ヘテ、第一着手トシテ乙種蹄狀紋ニ就テ研究ヲ始メタノデアル。

即チ乙種蹄狀紋一萬個以上ヲ集メ、其ノ内端ト外端トノ間ニ介在スル指頭隆線數ヲ算ヘ隆線數何本ノモノガ多イカ、又ハ少ナイカラ檢ベ、日本ニ於テ從來檢査セラレタ司法省ノ調査、久保博士及ビ岸氏ノ調査並ニ獨逸ハンブルグニ於ケルロツシエル氏ノ報告ヲ比較對照シテ、其ノ間ニ何等カノ人種的差違ガアルモノデアルカヲ知ラントシタ。

### 三、檢査方法及ビ材料

指紋原紙ノ中カラ乙種蹄狀紋ノミヲ選リ出シ、大場博士著個人識別法ニ規定スル方法ニヨリ、ルーペヲ用キテ先ヅ内端外端ヲ定メ、其ノ間ニ介在スル指頭隆線數ヲ算ヘ、其ノ隆線數ニ從ツテ、乙種蹄狀紋ヲ統計シタ。内端外端ノ定メ方ニ就テハ、大正十二年司法省指紋部編纂ノ日本指紋法ニ記載スル方法ト前記大場博士ノ著書ニ記載スル方法トニハ可ナリノ相違ガアルガ、仄聞スル所ニヨレバ、我司法省ニ於テモ現在ハ、ヤハリ大場博士ノ著書ニ記載シテ居ル法式ニ從ツテ居ルトノ事デアルカラ、余モ亦之ヲ採用シテ司法省指紋部編纂ノ日本指紋法ニ記セル改正方法ニ從ハナイ事トシタ。

指紋材料ハ、スベテ法醫學教室所藏ノモノヲ借用シタ。此ノ内岐阜縣ノモノハ、大正十五年七月第二回夏期研究旅行トシテ、岸助手ニツイテ岐阜ノ富士紡績株式會社ニ行ツタ時、余等ノ探ツタモノデ、能登半島突端ノモノハ、大正十五年十二月岸助手ニ同行シ、同地方人ノ血液型ノ検査ヲナシタ際余ガ自ラ探ツタモノデアル。

#### 四、我國ニ於ケル指紋ノ分類並ニ其ノ指紋價

第一表 乙種蹄狀紋ノ値ノ定メ方

國 別	内端ト外端トノ間ニアル指頭隆線數	指紋價
日 本 司 法 省 式	七本以下……………	3
	八本ヨリ十一本……………	4
	十二本ヨリ十四本……………	5
	十五本以上……………	6
	九本以下……………	3
ハンブルグ式	十本ヨリ十三本……………	4
	十四本ヨリ十六本……………	5
	十七本以上……………	6
	九本以下……………	3
	十本ヨリ十三本……………	4

指紋ヲ其ノ形狀ニヨツテ分類シテ、弓狀紋、蹄狀紋、渦狀紋ノ三、トスルガ、蹄狀紋ニハ、甲種蹄狀紋ト乙種蹄狀紋ノ二種アリ、渦狀紋ニハ、上流渦狀紋、中流渦狀紋、下流渦狀紋ノ三種ガアル。然シテ指紋紙ノ分類上各指紋ニ價ヲ附シテ區別スル事ニシテ居ル。之ハ指紋原紙ノ排列ヲ簡便ニシ、多クノ原紙中ヨリ所要ノ指紋ヲ見出スコトヲ簡單且ツ迅速ニセンガタメデア。即チ弓狀紋ハ、1、甲種蹄狀紋ハ、2、乙種蹄狀紋ハ、3ヨリ6、上流渦狀紋ハ、7、中流渦狀紋ハ、8、下流渦狀紋ハ、

9ノ價ヲ持ツ。コノ内乙種蹄狀紋ハ、内外兩端間ニアル指頭隆線數ニヨツテ、3ヨリ6迄ノ價ヲ持ツテ居ルガ、コノ價ノ附ケ方ハ、ハンブルグ式ト日本司法省式デハ相違シテ居ル。ハンブルグ式デハ内外兩端ノ間ニアル指頭隆線數ガ九本以下ノモノニ、3、十本ヨリ十三本迄ノモノニ、4、十四本ヨリ十六本迄ニ、5、十七本以上ノモノニ、6、トイフ價ヲ附シタガ、日本司法省式デハ七本以下ノモノニ、3、八本ヨリ十一本迄ノモノニ、4、十二本ヨリ十四本ノモノニ、5、十五本以上ノモノニ、6トイフ指紋價ヲ附シテ居ル。兩者ノ指紋價ノ定メ方ノ相違ヲ示スニ第一表ノ通りデアル。

間ノ指頭隆線數

Terminus der ulnaren Schlingen)

久保 武 (T. Kubo)			檢 者 岸 孝義 (Untersucher) (T. Kishi)		
朝 鮮 (Korea)			場所 (Ort) 金澤 (Kanazawa)		
時 日 (Zeit) 1921			時日 (Zeit) 1925		
検査總數 1544 (♀)			検査 (Die gesamte Zahl der Schlingen) 2100		
指頭隆線數 Papillar- linienzahl	實 數 (abs. Zahl)	百 分 率 (%)	指頭隆線數 Papillar- linienzahl	實 數 (abs. Zahl)	百 分 率 (%)
1	16	1.03	1	11	0.5
2	40	2.59	2	17	0.8
3	53	3.43	3	37	1.8
4	53	3.43	4	35	1.7
5	65	4.20	5	67	3.2
6	79	5.11	6	61	2.9
7	75	4.85	7	62	3.0
8	94	5.08	8	96	4.6
9	85	5.50	9	93	4.4
10	85	5.50	10	128	6.1
11	107	6.93	11	140	6.7
12	117	7.57	12	154	7.3
13	122	7.90	13	179	8.5
14	107	6.93	14	174	8.3
15	109	6.93	15	203	9.7
16	100	6.47	16	157	7.5
17	82	5.31	17	120	5.7
18	34	2.20	18	100	4.8
19	48	3.10	19	77	3.7
20	22	1.42	20	70	3.3
21	22	1.42	21	46	2.3
22	13	0.84	22	28	1.3
23	6	0.04	23	13	0.6
24	3	0.02	24	11	0.5
25	0	0	25	8	0.4
26	3	0.02	26	8	0.4
27	0	0	27	2	0.1
28	1	0.01	28	2	0.1
29	0	0	29	1	0.05
30	0	0	30	0	0
?	3	0.02	?		

第 二 表 乙種蹄狀紋ニ於ケル内外兩端  
(Die Frequenz der Papillarlinienzahl zwischen inneren u. äusseren

檢 査 者 ロッシエル (Roscher)			檢 査 者 犯罪人異同識別 調査委員			檢 査 者 (Untersucher)		
場所 (Ort) ハンブルグ (Hamburg)			場所 (Ort) 市ヶ谷刑務所 (Ichigaya-Gefängnis)			場所 (Ort)		
時日 (Zeit) 1905			時日 (Zeit) 1908			時日 (Zeit) 1921		
検査 (Die gesamte Zahl) 3.000 總數 (der Schlingen)			検査 (Die gesamte Zahl) 373 總數 (der Schlingen)			検査 (Die gesamte Zahl) 4877 (合) 總數 (der Schlingen)		
指頭隆線數 Papillar- linienzahl	實 數 (abs. Zahl)	百 分 率 (%)	指頭隆線數 Papillar- linienzahl	實 數 (abs. Zahl)	百 分 率 (%)	指頭隆線數 Papillar- linienzahl	實 數 (abs. Zahl)	百 分 率 (%)
1	32	1.0	1	3	0.8	1	27	0.55
2	78	2.6	2	7	1.7	2	83	1.70
3	79	2.6	3	16	4.2	3	121	2.48
4	81	2.7	4	7	1.7	4	144	2.95
5	93	3.1	5	15	4.0	5	168	3.44
6	97	3.1	6	14	3.7	6	167	3.42
7	107	3.6	7	19	5.1	7	193	3.95
8	103	3.4	8	19	5.1	8	239	4.90
9	127	4.2	9	26	7.0	9	258	5.29
10	153	5.1	10	32	8.5	10	272	5.57
11	153	5.1	11	28	7.5	11	395	8.09
12	203	6.8	12	29	7.7	12	405	8.30
13	254	8.4	13	34	9.1	13	369	7.56
14	243	8.1	14	35	9.3	14	361	7.40
15	250	8.3	15	23	6.3	15	418	8.57
16	210	7.0	16	25	6.7	16	353	7.23
17	175	5.8	17	41	(10.9)	17	233	4.77
18	150	5.0	18			18	185	3.79
19	120	4.0	19			19	146	2.99
20	100	3.3	20			20	92	1.88
21	70	2.3	21			21	89	1.82
22	40	1.4	22			22	44	0.90
23	40	1.4	23			23	29	0.59
24	10	0.3	24			24	21	0.43
25	10	0.3	25			25	8	0.01
26	7	0.2	26			26	9	0.01
27	5	0.2	27			27	8	0.01
28	5	0.2	28			28	3	0.006
29	3	0.2	29			29	4	0.008
30	2	0.1	30			30	0	0
?			?			?	33	0.67

第二表ハ、ハンブルグノロツシエル氏ノ三〇〇〇個ノ乙種蹄狀紋ニ就テノ調査(一九〇五年)、我國ノ犯罪人異同識別法取調會調査委員ノ左手示指ニ於ケル三七三個ノ乙種蹄狀紋ニ就テノ調査(一九〇八年)、久保博士ノ朝鮮人男子四八七七個、女子一五四四個ノ乙種蹄狀紋ニ就テ行ツタ調査(一九二二年)、並ニ當敎室岸孝義氏ガ金澤小學兒童ニ就テナシタ、二一〇〇個ノ乙種蹄狀紋ニ就テノ調査成績(一九二五年)ヲ示シタモノデアル。

### 五、調査成績

余ノ調査例總數ハ、一萬二千五百六十個デ、縣別ニ細別スレバ、秋田縣七四二、茨城縣六九一、能登半島突端一〇〇二、石川縣五九三六、愛知縣四七三、岐阜一二一三、京都府五七三、鹿兒島縣九五九、沖繩縣九七一デアル。各縣ニツイテノ余ノ調査成績ハ一括シテ第三表ニ掲ゲテ置ク。

### 六、考察

#### (一) 秋田縣

秋田縣ニ於テハ、最モ多イノハ、指頭隆線數十三本ノモノデアツテ、全體ノ九〇二%ヲ占メテイル。之ニ次イデ十四本ノモノガ多イ。

大體ニ於テ、一本、二本、三本ト順次指頭隆線數増加スルニ從ヒ、ソノ出現頻度モ増加シ、八本ヨリハ益々又ソノ數ヲマシ、十三本ノモノニ至リ最高ヲ示シテイルガ、以後ハ隆線數マスニ從ヒ、ソノ出現數ガ減少シ來リ、十八本ノモノハ比較的多ク、六・八七%ヲ示シテイルガ、十九本ノモノニ至ツテハ急ニ減少シテ來ル。隆線數二十六本ノモノ一個アルケデ、二十七本以上ノモノハ一ツモナイ。

之ヲ日本司法省ノ形式ニヨリ分ケテミルト、



隆線數七本以下

八本ヨリ十一本マデ

一一〇個 3

十二本ヨリ十四本マデ

一五〇個 4

十五本以上

一八八個 5

二九二個 6

次ニ、ハンプルグ式ニヨツテ分ケテミレバ、

九本以下

一七三個 3

十本ヨリ十三本マデ

二一五個 4

十四本ヨリ十六本マデ

一六八個 5

十七本以上

一八五個 6

コノ右表ニヨツテミレバ、秋田縣ニ於テハ、ハンプルグ式ノ分ケ方ガ適當ノ様ニ思ハレル。コノ縣ニ於ケル乙種蹄狀紋ノ平均隆線數ハ、十三、〇本トナリ、他ノ府縣ニ比シテ、最高ノ値ヲ示シテイル。ソノ平均値ノ出シ方ハ、

$$M(\text{平均値}) = \frac{\sum (\text{隆線數} \times \text{實數})}{\text{實數總和}}$$

(二) 茨城縣

茨城縣ニ於テ最モ多イノハ隆線數十五本ノモノデアツテ、九二六%ヲ示シ、十四本ノモノハ之ニ次ギ、九二二%デアツテ、秋田縣ニ於ケル最高十三本ノモノヨリ尙高イ%ヲ示シテイル。隆線數二十五本、二十七本、二十八本、二十九本ノモノハ皆無デ、二十六本ノモノ二個、三十本ノモノ一個アツタ。

之ヲ日本司法省式ニヨツテ分類スルニ、

隆線數七本以下

八本ヨリ十一本マデ

一三〇個 3

一四八個 4

乙種蹄狀紋ニ於ケル内外兩端間ノ指頭隆線數

zwischen inneren und äusseren Terminus der ulnaren Schlingen.)

(Untersucher) 正木信夫 (N. Masaki) 1927.

能登半島 (Noto Peninsula)		石川縣 (Ishikawa)		愛知縣 (Aichi)		岐阜縣 (Gifu)		京都府 (Kyoto)		鹿児島縣 (Kagoshima)		沖縄縣 (Okinawa)	
1002		5936		473		1213		753		959		971	
實數 (abs. Zahl)	百分率 (%)	實數 (abs. Zahl)	百分率 (%)	實數 (abs. Zahl)	百分率 (%)	實數 (abs. Zahl)	百分率 (%)	實數 (abs. Zahl)	百分率 (%)	實數 (abs. Zahl)	百分率 (%)	實數 (abs. Zahl)	百分率 (%)
6	0.58	46	0.77	5	1.05	16	1.31	5	0.87	11	1.14	16	1.64
11	1.09	92	1.54	9	1.90	20	1.64	14	2.44	9	0.93	25	2.57
16	1.58	109	1.83	14	2.95	32	2.63	11	1.91	23	2.39	20	2.05
26	2.59	158	2.66	10	2.11	43	3.54	26	4.53	23	2.39	29	2.98
32	3.19	199	3.35	21	4.43	60	4.94	22	3.83	37	3.85	35	3.60
58	5.78	242	4.07	27	5.70	53	4.36	27	4.71	34	3.54	44	4.53
40	3.99	264	4.44	23	4.87	61	5.02	25	4.36	40	4.17	33	3.39
61	6.08	308	5.18	27	5.70	63	5.19	28	4.88	42	4.37	45	4.63
64	6.38	317	5.34	22	4.67	58	4.78	29	5.06	59	6.15	53	5.45
67	6.68	370	6.23	35	7.39	77	6.34	36	6.28	54	5.63	69	7.10
61	6.08	401	6.75	30	6.34	89	7.33	36	6.28	62	6.46	60	6.17
87	8.68	421	7.09	28	5.91	93	7.66	51	8.90	50	5.21	89	9.16
81	8.08	467	7.86	51	10.83	102	8.40	40	6.98	70	7.29	80	8.23
78	7.78	442	7.44	46	9.73	76	6.26	51	8.90	69	7.19	82	8.44
83	8.28	481	8.10	24	5.07	92	7.58	35	6.10	75	7.82	72	7.41
67	6.68	415	6.99	23	4.87	71	5.85	35	6.10	62	6.46	53	5.45
46	4.59	341	5.74	30	6.34	67	4.52	22	3.83	59	6.15	49	5.04
42	4.19	237	3.99	13	2.74	32	2.72	29	5.06	55	5.73	33	3.39
22	2.19	204	3.43	14	2.95	41	3.38	19	3.31	36	3.75	24	2.47
21	2.09	159	2.67	7	1.47	21	1.73	11	1.91	33	3.44	19	1.95
5	0.49	74	1.24	4	0.84	18	1.48	7	1.22	18	1.87	12	1.22
14	1.39	77	1.29	5	1.05	16	1.31	3	0.52	10	1.03	15	1.54
6	0.58	37	0.62	3	0.63	5	0.41	2	0.34	8	0.83	5	0.51
4	0.38	28	0.47	1	0.21	1	0.08	2	0.34	8	0.83	3	0.30
1	0.09	22	0.37	0	0	3	0.24	3	0.52	5	0.52	3	0.30
3	0.29	12	0.20	1	0.21	1	0.08	3	0.52	4	0.42	2	0.20
0	0	11	0.19	0	0	1	0.08	1	0.17	0	0	0	0
0	0	1	0.01	0	0	0	0	0	0	2	0.20	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.10	1	0.10
0	0	1	0.01	0	0	1	0.08	0	0	0	0	0	0

第三表  
(Die Frequenz der Papillarlinienzahl  
検者

縣名 (Die Name d. Provinz)	秋田縣 (Akita)		茨城縣 (Ibaraki)	
検査總數 (Die gesamte Zahl d. Schlin- gen)	742		691	
指頭隆線數 Zahl d. Papillar- linienzahl	實數 (abs. Zahl)	百分率 (%)	實數 (abs. Zahl)	百分率 (%)
1	9	1.21	7	1.01
2	6	0.80	10	1.44
3	17	2.29	13	1.88
4	9	1.21	25	3.61
5	21	2.82	21	3.03
6	23	3.09	24	3.47
7	25	3.36	30	4.34
8	29	3.91	23	3.32
9	34	4.58	28	4.05
10	42	5.66	46	6.65
11	47	6.33	51	7.38
12	59	7.95	43	6.22
13	67	9.02	55	7.95
14	62	8.35	63	9.11
15	56	7.54	64	9.26
16	51	6.87	44	6.36
17	39	5.25	38	5.49
18	51	6.87	31	4.48
19	27	3.62	26	3.76
20	23	3.09	17	2.46
21	17	2.29	12	1.73
22	12	1.61	7	1.01
23	7	0.94	5	0.72
24	6	0.80	5	0.72
25	2	0.26	0	0
26	1	0.13	2	0.28
27	0	0	0	0
28	0	0	0	0
29	0	0	0	0
30	0	0	1	0.14

十二本ヨリ十四本マデ  
十五本以上  
ハンプブルグ式ニヨレバ、  
九本以下  
十本ヨリ十三本  
十四本ヨリ十六本  
十七本以上

一六一個  
二五二個  
一八一個  
一九五個  
一七一個  
一四四個  
6 5 4 3

司法省式デハ十五本以上ノモノガ甚ダ多ク、七本以下ノモノノ約二倍トナリ、ハンプブルグ式ノ方が幾ラカヨイ様ニ  
思フ。コノ縣ノ乙種蹄狀紋ノ平均隆線數ハ、十二、四本デアル。

(三)、能登半島突端

能登地方ニ於テハ、隆線數一本ノモノハ、比較的少ナク、〇・五八%ニシテ、二本、三本ト隆線數ノ増加ニ伴ヒ順次其ノ頻度モ増加シ、六本ノモノハ、五七八%ヲ示スニ、七本ノモノハ六本ノモノヨリ少ナク、三九九%デアルガ、八本、九本、十本、十一本ノモノハ何レモ、六%以上ヲ示シ、十二本ノモノ、八六八%デ最高値ヲ示シテ居ル。即チ能登地方デハ、内外兩端ノ隆線數十二本アル乙種蹄狀紋ヲ有スル人が比較的多イト云フコトニナル。コノ隆線數ノ頻度ヲ示ス曲線ハ京都府及ビ沖繩縣ノソレニ類似シテ居ル點ガ多イ。次ニ例ノ如ク日本司法省式ニヨリ、分ケルト、隆線數七本以下

八本ヨリ十一本マデ

二五三個

4

十二本ヨリ十四本マデ

二四六個

5

十五本以上

三一四個

6

又ハンプルグ式ニテハ

九本以下

三一四個

3

十本ヨリ十三本マデ

二九六個

4

十四本ヨリ十六本マデ

二二八個

5

十七本以上

一六四個

6

日本司法省式ニ從ヘバ、十五本以上ノモノガ多クナリ、ハンプルグ式ニ從ヘバ、九本以下ノモノガ非常ニ多クナリ兩者何レモ適當デナイ。

コノ縣ノ平均隆線數ハ、十一、八本デアル。

(四、石 川 縣

余ノ石川縣ニ於ケル結果ハ岸孝義氏ノ金澤ニ於ケル結果ト大體ヨク似テイル。即チ最も多イノハ隆線數十五本ノモ

ノデアツテ、八・二〇%、岸氏ノ金澤ノ結果ヨリ少シ小サイ。然ルニ、十本、十一本、十二本ノモノハ殆ンド同ジ%ヲ示シテ居ル。隆線數ノ頻度ヲ圖示スルト、二ツノ頂點ヲ有スル山形ヲ得ル。

岸氏ハ、二十九本ノ隆線ノモノヲ、二一〇〇個ノ中一ツヲ見テ居ルガ、三十本ノモノハ一ツモ見テオラレナイ。余ハ、三十本ノモノ、二十八本ノモノ各一例ヲ見テイル。次ニ司法省式ニヨリ分ケテミレバ、

隆線數七本以下

一一一〇個 3

八本ヨリ十一本マデ

一三九六個 4

十二本ヨリ十四本マデ

一三三〇個 5

十五本以上

二一〇〇個 6

ハンブルグ式

隆線數九本以下

一七三五個 3

十本ヨリ十三本マデ

一六五九個 4

十四本ヨリ十六本マデ

一三三八個 5

十七本以上

一二〇四個 6

コノ縣ニ於テモ何レガヨイカアマリ明瞭ニハ言ヘナイガ、ハンブルグ式ノ方ガドチラカトイヘバ、少シ適當シテ居ル様デアル。コノ縣平均隆線數ハ、十二、二本デ、大體茨城縣ニ於ケルソレト同ジデアル。

# (五) 愛 知 縣

本縣ノモノハ隆線數十三本ヲ有スルモノ最モ多イガ、隆線數ノ變異曲線ハ鋸齒狀ヲナシテ居ルコトハ、沖繩縣ノモノトヨク似テ居ル。然シ隆線數十本ノモノガ、比較的多イト云フ點ハ、市ヶ谷刑務所ニ於ケル成績トヨク似テイル。次ニ日本司法省式ニヨリ分類シテミレバ、

隆線數七本以下

八本ヨリ十一本マデ

十二本ヨリ十四本マデ

十五本以上

ハンブルグ式ニテハ

隆線數九本以下

十本ヨリ十三本マデ

十四本ヨリ十六本マデ

十七本以上

之ニヨツテミレバ、愛知縣ニ於テハ、日本司法省式ガヨク當テハマツテイル。七本以下ノモノノ和ト、十五本以上ノモノノ和トノ差ハ、十六ニ過ギナイノニ、ハンブルグ式ニ從ヘバ、九本以下ノモノノ和ハ、十七本以上ノモノノ和ノ二倍モアルノデアル。コノ縣平均隆線數ハ、十一、五本デアル。

(六) 岐 阜 縣

岐阜縣ニ於テ最モ多イノハ、隆線ノ數、十三本ノモノデアツテ、八・四〇%、次ガ十二本ノモノ、十五本ノモノトイフ順序デアル。十三本ノモノガ最モ多イ點ハ、愛知、秋田縣ニ似、又ハンブルグニ於ケルロツシエル氏ノ成績ト同ジ形ニナツテイル。隆線數二十八、二十九本ノモノハ、一ツモナカツタ。日本司法省式ニヨリ分ケテミレバ

隆線數七本以下

八本ヨリ十一本マデ

十二本ヨリ十四本マデ

二八五個

二八七個

二七一個

3

4

5

十五本以上

三七〇個

6

ハンプブルグ式ニテハ

隆線數九本以下

四〇六個

3

十本ヨリ十三本マデ

三六一個

4

十四本ヨリ十六本マデ

二三九個

5

十七本以上

二〇七個

6

右表ニヨツテ、岐阜縣ニ於テハ、ドチラノ分ケ方ガ至當デアルカトイヘバ、余ハ日本司法省式ノ方ガヨイダラウト  
思フ。勿論七本以下ノモノト、十五本以上ノモノトノ間ニハ、一〇〇程モ差ガアルガ、ハンプブルグ式ニヨレバ九本以  
下ノモノト、十七本以上ノモノトノ間ニハ、二〇〇カラノ差ガアルカラデアアル。而シテ、九本以下ノモノガ四〇六モ  
アルトイフコトハ、コノ縣ニ於テ割合ニ、五本、六本、七本、八本ノモノガ多クアルガタメデアアル。平均隆線數ハ、  
十一、六本デアアル。

(七) 京都府

京都府ニ於テハ最モ多イノハ隆線數十二本ノモノト、十四本ノモノトデアツテ、同ジ%ヲ示シ、而シテ十二本ノモ  
ノガ多イトイフ點ハ、能登半島ニ於ケル成績ト似テイル。日本司法省式ニヨリ分ケレバ

隆線數七本以下

一三〇個

3

八本ヨリ十一本マデ

一二九個

4

十二本ヨリ十四本マデ

一四二個

5

十五本以上

一七二個

6

ハンプブルグ式ニテハ

隆線數九本以下

一八七個 3

十本ヨリ十三本マデ

一六三個 4

十四本ヨリ十六本マデ

一二一個 5

十七本以上

一〇二個 6

本縣ニハ、日本司法省式ノ方ガヨク適用出來ルヤウデアル。司法省式ニ於ケル差違ハ、ハンプルグ式ノ差違ノ半分ニ過ギナイ。平均隆線數ハ、十一、七本デアル。

(八、鹿兒島縣

鹿兒島縣ハ、隆線十五本ノモノ最モ多ク、次ハ十三本ノモノデアル。日本司法省式ニヨツテ分類スレバ

隆線數七本以下

一七七個 3

八本ヨリ十一本マデ

二一七個 4

十二本ヨリ十四本マデ

一八九個 5

十五本以上

三七六個 6

ハンプルグ式ニテハ

九本以下

二七八個 3

十本ヨリ十三本マデ

二二六個 4

十四本ヨリ十六本マデ

二〇六個 5

十七本以上

二三九個 6

之ニヨレバ十五本以上ノモノガ、七本以下ノモノヨリ、二〇〇個程モ多クテ司法省式ハ不適當デアル。九本以下ノモノト、十四本ヨリ十六本マデノモノトノ間ニ、七十個程ノ差ハアルガ、ムシロ、ハンプルグ式ノ方ガヨイ。コノ縣



ノ平均隆線數ハ、十二、六本デアル。

(九) 沖 繩 縣

沖繩縣ニ於テハ、比較的隆線數一本ノモノガ多ク、一六四%ノ多キヲ占メテイテ、二本ノモノモ割合ニ多イ。七本ノモノハ反對ニ少ナク、三・三九%ニ過ギナイ。十三本ノモノニ至リ最高ニ達シ、九・二六%ヲ示ス。十二本ノモノガ最多數ヲ占メテイル點ハ京都及ビ能登地方ニ共通ナ點デアツテ、即チコノ地方ニハ、隆線十二本ノ乙種蹄狀紋ヲ有スル人ガ一番多イトイフコトニナル。

日本司法省式ニヨリ分ケレバ

隆線數七本以下

二〇二個 3

八本ヨリ十一本マデ

二二七個 4

十二本ヨリ十四本マデ

二五一個 5

十五本以上

二九一個 6

ハンブルグ式ニテハ

隆線數九本以下

三〇〇個 3

十本ヨリ十三本マデ

二九八個 4

十四本ヨリ十六本マデ

二〇七個 5

十七本以上

一六六個 6

之ニ於テハ、ドチヲノ方法モアマリ面白クナイ。然シ強イテ、ドチヲカトイヘバ、日本司法省式ノ方ガ稍優ツテ居ル。コノ縣平均隆線數ハ、十一、八本デアル。

七、總計一萬二千五百六十個ノ乙種蹄狀紋ニツイテ

左ニ總計一萬二千五百六十個ノ乙種蹄狀紋ニツイテノ調査成績ヲ第四表ニ示ス。

第四表 乙種蹄狀紋ニ於ケル内外兩端間ノ指頭隆線數  
(Die Frequenz der Papillarlinienzahle zwischen inneren und äusseren  
Terminus der Ulnarschlingen.)

檢者 (Untersucher) 正木 (N. Masaki)

検査例總數 Die gesamte Zahl d. untersuchten Mustern. 12,560

Zahl der Papillarlinien	實 數 abs. Zahl	百 分 率 %
1	121	0.96
2	196	1.56
3	255	2.03
4	347	2.76
5	448	3.56
6	532	4.23
7	541	4.30
8	626	4.98
9	664	5.28
10	796	6.33
11	837	6.66
12	921	7.33
13	1013	8.06
14	969	7.71
15	982	7.81
16	821	6.53
17	691	5.50
18	524	4.17
19	413	3.28
20	311	2.47
21	167	1.32
22	159	1.26
23	78	0.63
24	59	0.46
25	39	0.31
26	29	0.23
27	14	0.11
28	2	0.01
29	2	0.01
30	3	0.02
Zusammen	12.560	100%

第四表總計一萬二千五百六十個ノ乙種蹄狀紋ニツイテ見レバ最多クアルノハ、隆線數十三本ノモノデアツテ、八・〇六%即チ約全體ノ八分ハ、十三本ノ隆線ヲ有スルモノデアル。而シテ最も少ナイノハ、二十八本、二十九本ノモノデアル。一萬二千五百六十個ノ内各々ニツツアツタ。次ガ三十本ノモノデ三ツ見タノミデアル。三十本以上ノ隆線

數ヲ持ツテ居ルモノハ一ツモナカッタ。隆線一本ノモノヨリ段々隆線數ヲ増加スルニツレ、ソノ數モマシ、略々同ジヤウナ割合ニ増ヘテ終ニ、十三本ノモノニ至リ最高ニ達シ、ソレヨリ十四本ノモノ少シ少ナク再ビ、十五本ノモノ多クナリ、然シ十三本ノモノヨリハ少ナク、ソレ以後ハ逆ニ隆線數ヲマスニツレテ反比例ニソノ數ハ之モ殆ンド同ジ割合ニ減少シテ行ツテイル。今之ヲ十四本ノモノヲ假リニ境ニシテ考ヘテ見ルトキハ、ソレヨリ以下ノモノハ隆線數ト共ニソノ數モ多クナリ、十四本以上ノモノハ、ソノ隆線數ト反比例ニ減少スルトイフコトガ出來ル。

日本司法省ニヨリ分類シテミレバ

隆線數七本以下ノモノ

二四四〇個 3

八本ヨリ十一本マデ

二九二四個 4

十二本ヨリ十四本マデ

二九〇三個 5

十五本以上

四二九四個 6

ハンプルグ式ニテハ

隆線數九本以下

三七三〇個 3

十本ヨリ十三本マデ

三五六七個 4

十四本ヨリ十六本マデ

二七七二個 5

十七本以上

二四九一個 6

余ノ調査ノ結果ニヨレバ、乙種蹄狀紋ノ内外兩端間ニアル隆線數ノ變異曲線ハ、獨逸ハンプルグニ於テ、ロツシエル氏ガ、三千個ノ乙種蹄狀紋ニツイテナセル成績ト殆ンド一致シ、岸氏ガ金澤ニ於テナセル調査ト全ク同ジ結論ニナツタ。即チ乙種蹄狀紋ヲ隆線數ニヨツテ觀察スルニ、人種ニヨリ差別アルモノト見ル事ニハ賛シ難イ。コノ變異曲線ハ略々定型的ノ Binomial Curve ヲ描クモノデアル。

余ハ各縣ニツイテ、別々ニ調査シタ處、其ノ間ニ多少ノ相違ガアツタガ、之ハ觀察總數ノ少ナイガタメニ見ル現象デアツテ、大體ニ於テハ類似ノ曲線ヲナシテ居ル。若シ多數ノ材料ニツイテ觀察スレバ、各縣殆ンド同一ノ成績ヲ得ルニ至ルモノデアラウト思フ。我國ニ於テ指紋法ヲ採用スルニ際シ、司法省犯罪人異同識別調査委員會ガ、市ヶ谷監獄ニ於テナシタ調査ガ獨逸ニ於ケル報告ト違ツタ結果ヲ得タノハ、其ノ検査數ガ多クナカツタ事ニ起因スルモノデハナイカト思フ。

## 八、結 論

一、余ハ一萬二千五百六十個ノ乙種蹄狀紋ニ就テ、内外兩端間ニアル指頭隆線數ヲ算ヘ、各隆線數ニ對スル出現率ニ關シ統計ヲトリ、之ヲ我ガ司法省及ビ獨逸ハンブルグニ於ケル報告ト比較對照シテ其ノ間ニ人種の差違ガアルカラ考究シタ。

二、余ノ調査ニヨレバ、隆線數一本ヨリ十三本ニ至ル迄隆線數ノ増加ニ從ヒ、其ノ出現數モ次第ニ増加シ、十四本ヨリ以降ハ、隆線數ノ増加ニ伴ヒ、其ノ出現數次第ニ減少シ、二十七本ノ隆線ヲ有スルモノハ僅カニ、〇・二一%ニ過ギズ、二十八本以上ノ隆線ヲ有スルモノハ極メテ稀レデアル。余ノ調査セル總數一萬二千五百六十個ノ中、隆線數二十八本ノモノ、二十九本ノモノ各一個、三十本ノモノ三個アツタガ、三十本以上ノ隆線ヲ有スルモノハ、一個モナカツタ。

三、乙種蹄狀紋ノ内外兩端間ニアル隆線數ノ示ス變異曲線ハ殆ンド定型的ノ *Binomial Curve* ヲ描クモノデアル。

四、乙種蹄狀紋ノ内外兩端間ニアル隆線ノ出現率ハ獨逸ノハンブルグニ於テ、ロツシエル氏ノナセル調査ト比較シテ、其ノ間ニ人種の差別ヲ認メナイ。

五、乙種蹄狀紋ノ内外兩端間ニアル隆線ノ出現率ハ府縣別ニヨツテ著シキ差違ヲ認メナイ。

本研究中絶ヘズ岸助手ノ御援助ヲ得タ。ココニ其ノ御厚意ヲ深く感謝シマス。

- 1) H. Asada (淺田一)、續鑑定余談、三十一、雙胎兒ノ指紋、治療及處方 第七卷、第七冊、(77號) 1217頁、大正十五年八月。
- 2) H. Asada (淺田一)、親子ノ鑑別、治療及處方(續鑑定余談) 第七卷、第十冊、第八十號、1703頁 Nov. 1926。
- 3) H. Asada (淺田一)、血液及指紋ニヨル親子又ハ個人鑑別、醫海時報。1681號、2142頁、23/Oct. 1926。
- 4) H. Asada (淺田一)、指紋研究ノ新方面、醫事公論、760號。12/Feb. 1927。
- 5) K. Bonnevie, Studies on Papillary Patterns of Human Fingers. J. of genetics. vol. 15. No. 1 Nov. 1924。
- 6) T. Fujii (藤井藤藏)、監獄協會雜誌、第三十卷、第四號、70頁、第五號、60頁、第六號、63頁、第七號、42頁、第八號、68頁、第十一號、50頁、(1917) 第三十三卷、第十六號、40頁、(1920) 第三十五卷、第四號、58頁、(1922) 刑政、三十六卷、四號、五號、六號。(1923)
- 7) T. Furuhashi (古畑種基)、指紋ノ人種特異性並ニ「指紋係數」ニ就テ。日本ノ醫界、第十六卷、第九十三號(大正十五年十一月) 自警、第九卷、第八十九號(昭和二年一月)、第二十六回北陸醫學會報告(大正十五年十月)。臺報月報、第二十一卷、第二號、二六頁、Feb. 1927。
- 8) T. Furuhashi, The Difference of the Index of Fingerprints according to Race. Japan medical world. vol VII, No. 6 June, 1927。
- 9) R. Heindl, Daktyloskopie III te Auflage, 1927。
- 10) Y. Kurakami (倉上由一)、雙胎兒ノ指紋ニ就テ、社會醫學雜誌、第四七〇號(大正十五年三月)。
- 11) Prof. T. Kubo (久保武) Beiträge zur Daktyloskopie der Koreaner. Mitteilungen aus der medizinischen Hochschule zu Keijo. Bd. II. P. 115, 1918, Bd. III P. 54, 1919. Bd. IV H. 2, P. 1, 1921。
- 12) S. Kojima (兒島三郎)、指紋上ノ個人、五版。
- 13) S. Kojima (兒島三郎)、指紋ニ現ハレタル個性、大正十五年。
- 14) T. Kishi (岸孝義)、雙胎兒ノ指紋ニ同一ナルモノアリトノ説ニ對シテ。社會醫學雜誌、第四七八號(大正十五年十一月)。
- 15) T. Kishi (岸孝義)、雙胎兒指紋ノ研究(第一回報告)。金澤醫科大學十全會雜誌、第三十二卷、第七號、昭和二年七月。
- 16) T. Kishi (岸孝義)、指紋ニヨル年齡ノ推定、第七回日本醫學會、第二十一分科會、日本法醫學會、第十一次總會演說、社會醫學雜誌、第四七二號(大正十五年五月)。
- 17) T. Kishi (岸孝義)、現場指紋採取可能期間ニ關スル研究、第七回日本醫學會、第二十一分科會、日本法醫學會、第十一次、總會演說、社會醫學雜誌、第四七二號(大正十五年五月)。
- 18) Y. Kose (古瀬安俊)、犯罪人指紋研究、第一回報告、國家醫學會雜誌、第二九〇號、二九九頁、明治四十四年六月二十日發行。
- 19) Y. Kose (古瀬安俊)、犯罪人指紋研究、第二回報告、國家醫學會雜誌、第三〇五號、明治四十五年七月廿六日發行。
- 20) S. Oba (大場茂馬)、個人識別法、增訂第三版、明治四十五年。
- 21) H. Poll, Über Zwillingsforschung als Hilfsmittel menschlicher Erbkunde. Berliner Gesellschaft für Anthropologie, Ethnologie und Urgeschichte. 1914. P. 87。
- 22) G. Roscher, Handbuch der Daktyloskopie. 1905。
- 23) 司法省指紋部編纂、日本指紋法、大正十二年。
- 24) K. Yoshida & K. Fujita (吉田寛一、藤田潔)、指紋ノ遺傳學的研究、社會醫學雜誌、第四八〇號(昭和二年一月)。